おうちだに画報

渡物
鳥取・対外交流の歴史

写真の地図、何の地図だと思いますか？「アジア航海図」と言って、ポルトガル製の地図を元に製作された日本独自の航海図です。この地図は桃山時代に製作され、17世紀、朱印船貿易に活用されたと考えられています。

重要文化財「アジア航海図」
(財)林原美術館　蔵

地名には邦訳名を書き加え、中国や、日本人の渡航先であった東南アジア諸国周辺は特に詳しく描かれています。よく見ると十字旗、新月旗、ポルトガル国旗がみえます。十字旗はキリスト教、新月旗はイスラームを表し、当時の宗教圏がわかります。こうした地図を手に、各地の大名は異国との貿易を進め、商人達は大海原へとくり出して行ったことでしょう。

「渡物」とは、土地から土地、人から人へと伝わったもの、舶来品を意味し、12世紀ごろには使われていた言葉です。渡来の文化、舶来品、「渡物」の持つ意味合いは時代により異なり、交流という形は決して一様ではありませんでした。政治的なやりとりであったり、争いをともなっていたり、時には偶然に漂着したり、人々はさまざまな形で異なる文化に触れていました。

本展覧会では、古代から近世に至るまで、鳥取を中心とした「渡物」を取り上げます。考古資料、絵図、文書などの資料をとおして、その時代の背景にせまります。

（やまびこ館学芸員　田鍬美紀）

渡物（わたりもの）　鳥取・対外交流の歴史

と　き　7月22日（土）～9月3日（日）
午前9時～午後5時
入館料　一般500円
（小･中･高校生、70歳以上は無料）
ところ　やまびこ館　特別展示室
※7月4日（火）～7日（金）は、館内くん蒸のため臨時休館します。

■問い合わせ先　やまびこ館　上町88
TEL（0857）23-2140

SAJI Astro Park

■問い合わせ先
さじアストロパーク
佐治町高山1071-1 TEL（0858）89-1011

ぜったいわかる!? 七夕の星の見つけ方

「七夕には、おりひめ星とひこ星を見たい」という人のために、今回は七夕の星の見つけ方をご紹介します。梅雨で晴れにくいこともありますが、ぜひ探してみてください。

①七夕の日の夜9時ごろ、晴れていたら空を見上げる（晴れていなかったら、ここで終わり。残念!）。
②月を見つける（満月前の明るい月が見えます）。
③月を正面にして立つ。
④そこから左に90度回る（これで、ほぼ東を向いていることになります）。
⑤正面の高さ60度のところを見る（真上が高さ90度ですから、その半分のもう少し上）。
⑥近くに明るめの星があれば、それが「おりひめ星」。
⑦そこから、ななめ右下のほうにずーっと下がる。
⑧高さ30度くらいのところにある星が「ひこ星」。

どうですか？　なお、このワザは今年の七夕の日以外は使えませんので、あしからず。

佐治天文台長　香西洋樹（こうさいひろき）の「空の向こうの物語」

Vol.8 **七夕**

ベトナムに伝わるお話です。ヤーデ王の娘チュク=ヌは天の川のほとりで機（はた）を織っていました。また、ヌング=ランという牧童が川向こうで羊の群れの番をしていました。やがて、若い2人は深い恋仲になりヤーデ王に結婚の許しを願い出ました。王は、2人の決心の固いことを知り、7月を除いていつも自分たちの仕事に精を出すことを条件に結婚を許しました。

ところが2人は幸福に酔いしれて王様との約束を忘れてしまい、広い大空を歩き回りました。王様はそれを見てすっかり腹をたて、2人に天の川の両側に別れて暮らすように命令。こうして2人は7月だけ会うことを許されたのでした。

人々が語るところによると、7月というのは、鳥たちが大地を離れる月で、鳥たちは天の川へ飛んで行き、2人のために天の川に橋を架けてやるのだそうです。チュク=ヌはその橋を渡ってヌング=ランのところへ駆けて行き、会えたことを幸せに思い大声で泣き、別れるときが来ると悲しみのあまり泣くのだそうです。こうして、7月は雨の多い月になるのだそうです。

StarWorld　見上げてごらん